

大学院ソーシャル・データサイエンス研究科博士後期課程で養成する人材像

データ駆動社会の進展やデータサイエンス教育の発展により、データ駆動型の課題解決アプローチが求められています。

一橋大学では、社会に対する深い理解とデータサイエンスの高度なスキルを共に有し、それらを併用しながら従来にない方法で組み合わせることで課題解決を行うことができる、**ソーシャル・データサイエンス領域における研究開発人材**を養成するため、一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科に、博士後期課程の設置を構想しています。

一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科博士後期課程で養成する、ソーシャル・データサイエンス領域における研究開発人材とは、具体的には、以下のような場で社会に貢献できる人材のことを指しています。

- ①大学や研究機関において最先端の研究・教育を牽引する者
- ②民間企業や公的セクターにおいて最先端の知見を生み出す者

大学院ソーシャル・データサイエンス研究科博士後期課程のカリキュラム概要

- 1年次には、ソーシャル・データサイエンス領域での研究遂行上必須となる、データを収集し使用するための倫理的な方法や、研究開発マネジメントについて学びます。また、1年を通じてリサーチワークショップに参加して、国際的な研究の最先端の状況を理解するとともに、自身の研究を報告することにより学術コミュニケーション能力を身につけます。
- 2年次には、1年を通じて企業・官公庁・地方自治体等との間の共同研究に参画して1年次の学修内容を実践し、同時に最先端の知識を身につけます。
- このように、1年次に学術研究の作法を身につけ、2年次に現実のビジネス・社会課題解決の場において研究開発を実践することで、本研究科の修了生は、本人のその時々志向に応じて、大学・研究機関や民間企業・公的セクターを往還しながらキャリアを形成し、社会に貢献していくことが可能となります。
- 博士論文執筆のための研究指導では、学生の研究テーマをふまえて指名される主指導教員に加え、社会科学領域、データサイエンス領域からそれぞれ副指導教員を1名ずつ割り当てる、集団指導体制を採用します。
- 学生のキャリア計画をふまえ、必要に応じてプレFDプログラムの受講を推奨します。